

ば余も亦清浄なり。解脱が自在なれば余も亦自在なり。一切の法を聞くこと亦是の如し。皆仏法を具して減少する所無し。是を聞円と名く」等云云。此の釈は即ち相對種の手本なり。其の意如何。答う、生死とは我等が苦果の依身なり。所謂五陰・十二入・十八界なり。煩惱とは見思・塵沙・無明の三惑なり。結業とは五逆・十惡・四重等なり。法身とは法身如来、般若とは報身如来、解脱とは応身如来なり。我等衆生無始曠劫より已來此の三道を具足し、今法花經に値いて三道即三徳となるなり。

難じて云く、火より水は出でず、石より草は生ぜず。惡因は惡果を感じ、善因は善報を生ずるは、仏教の定まれる習いなり。而るに我等其の根本を尋ね究むれば、父母の精血赤白二滯和合して一身と爲る。惡の根本不浄の源なり。設い大海を傾けて之を洗うとも清浄なるべからず。又此の苦果の依身は其の根本を探り見れば貪瞋癡の三毒より出づるなり。此の煩惱・苦果の二道に依りて業を構う。此の業道即ち是れ結縛の法なり。譬えば籠に入れる鳥の如し。如何ぞ此の三道を以て三仏因と称せんや。譬えば糞を集めて栴檀を造れども終に香しからざるが如し。

答う、汝が難大いに道理なり。我も此の事を弁えず。但し付法藏の第十三天台大師の高祖竜樹菩薩、妙法の妙の一字を釈して、「譬えば大薬師の能く毒を以て薬と為すが如し」等云云。毒と云うは何物ぞ。我等が煩惱・業・苦の三道なり。薬とは何物ぞ。法身・般若・解脱なり。能く毒を以て薬と為すとは何物ぞ。三道を変じて三徳と為すのみ。天台云く、「妙をば不可思議と名く」等云云。又云く、「夫れ一心、乃至不可思議境、意此に在り」等云云。即身成仏と申すは此れ是なり。近代の花嚴・真言等、此の義を盜